

c. 湧水地群

那須野原を流れる那珂川沿いや、高久丘陵の沼沢地では湿性の植物が多く、水生の昆虫類にとって格好の生息環境となっている。水生昆虫類としては、ゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、シマゲンゴロウなどの止水性のゲンゴロウ類や、タガメ、ミズカマキリ、タイコウチなどの水生半翅類が比較的多く生息している。那珂川には、清流性のチャイロシマチビゲンゴロウ、キボシツブゲンゴロウ、チビケシヒラタガムシ等の水生甲虫類も生息している。また、那須野原周辺の湿地は、地形や気候的要因で東北地方と関連が深いマークオサムシやシラハタネクイムシなどの、湿地性で北方系の種や日本海要素の昆虫も生息している。



ゲンゴロウ(ゲンゴロウ科)

(写真：(株)日水コン)



タガメ (コオイムシ科)

(写真：(株)日水コン)



左 雄 / 右 雌

マークオサムシ (オサムシ科)

(写真：栃木県立博物館)



チビケシヒラタガムシ (ガムシ科)

(写真：栃木県立博物館)

図 4-19 那須野原の湧水や水辺の生物

那須野原の扇状地末端部では湧水地や湿地が点在し、ミヤコタナゴや陸封型イトヨなどの希少な魚類が生息しているところもある。

大田原市市野沢の湧水地には、ハタベカンガレイやナガエミクリ、アイヌワサビなどの水生植物が見られる。この湧水を水源とするおかんじぢ川はイトヨの生息地として大田原市の天然記念物に指定されている。

その他、^{ちかその}箒川(支川)近傍の大田原市親園地区は陸封型イトヨの生息地、また、大田原市滝岡地区にはミヤコタナゴの保護地として栃木県に天然記念物に指定されており、同市^{はんだ}羽田地区の羽田沼付近は、「種の保存法」(「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」)によるミヤコタナゴ生息地保護区となっている。



おかんじぢ川の湧水地 (5月)



陸封型イトヨ(トゲウオ科)

(写真：なかがわ水遊園)



ハタベカンガレイ(カヤツリグサ科)



ナガエミクリ(ミクリ科)

図 4-20 湧水地の生物 (大田原市市野沢)



羽田ミヤコタナゴ生息地保護区（大田原市）



ミヤコタナゴ生息地保護区の水路
(羽田沼下流 大田原市 8月)



ミヤコタナゴ（コイ科）

(写真：なかがわ水遊園)

体長 3~5cm。日本固有種。産卵期になると雄の腹が美しい朱色になる。関東地方に広く生息していたが、現在は絶滅の危機にあるほど希少である。マツカサガイ等の淡水二枚貝のエラに産卵するため、本種の繁殖のためには、淡水二枚貝が生息してなければならない。



マツカサガイ（イシガイ科）

(写真：栃木県水産試験場)

図 4-21 ミヤコタナゴの生息地

那須野原では、アカヒレタビラ、タナゴの産卵母貝である、カワシンジュガイという希少な淡水二枚貝が生息している。本種は、那須野原の細流や半自然水路に生息しており、氷河時代の北方系の遺存種と考えられている。栃木県のみならず全国的に絶滅の危機に瀕しており、環境省のレッドデータリストでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。幼生はヤマメのエラに付着し、これとともに移動する。成長した貝は、体の半分が川底に突き刺さるようにして砂利に埋もれている。



(写真：栃木県水産試験場)

図 4-22 カワシンジュガイ（カワシンジュガイ科）